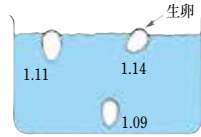


手順・管理

選種・種子消毒

比重選

※もみ枯細菌病、ばか苗病などの病病を除去する。
※比重選後は必ず水洗いをする。

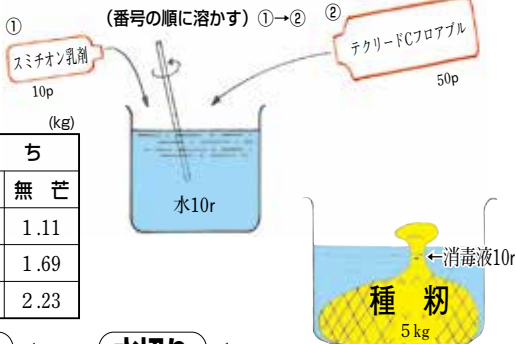


水10a当り食塩・硫安の量 (kg)

区分	うるち		もち	
	有芒	無芒	有芒	無芒
比重	1.11	1.14	1.09	1.11
食塩	1.69	2.25	1.32	1.69
硫安	2.23	3.06	1.67	2.23

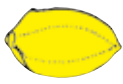
消毒

・心枯線虫病 (黒点米) ⇒ スミチオン乳剤
・いもち病・ばか苗病 ⇒ テクリードCフロアブル
・もみ枯細菌病



※24時間浸漬(1~2回かく拌する)
※種粉5kgに消毒液10rを用いる。
※種粉は荒目の袋にゆとりをもって入れる。
※廃液は、魚毒が強いので、池や川に流さない。

催芽

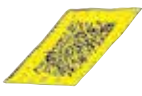


※ハト胸状態に仕上げる。

浸種

※水の動かない場所に3~4日間(ヒノヒカリは4~5日間)つけておく。水の量は種粉の2倍程度とし、水の入れかえは1日1回静かに行う。
※早めに催芽が認められた時は広げて陰干する。

水切り



苗の育苗様式と資材の準備

	稚苗	中苗	ポット成苗
床土	グリーン・ソイル	グリーン・ソイル	グリーン・ソイル
土量	4袋	3袋	4袋
種子必要量(10a当り)	乾初重 4kg	3kg	2.6kg
その他作業	宇部培土は播種3~5日前に1袋当り水1r程度を注入する。		
育苗箱数	16~18箱	22~26箱	35~40箱
播種量(1箱当り)	140~160g (1.4~1.6合)	100~110g (1~1.1合)	50~60g (0.5~0.6合)
苗の大きさ(葉令・草丈)	2.5葉・15cm	4葉・18cm	5葉・20cm
栽植密度	30×18cm 61株	30×18cm 61株	33×20cm 50株
1株植付本数	3~4本	2~3本	2~3本
注意	苗枯病の予防には、ダコレート水和剤500倍液を播種時から緑化期但し、播種14日後までに1箱当り500p灌注する。(タカレンと5日以内の近接散布は避ける)		

温度管理と育苗要領

稚苗	出芽期	緑化期	硬化期
日数	2~3日	4~5日	9~10日
温度	30~32℃	15~25℃	12~22℃
管理	高温にならないように注意する。出芽後は1cm以内とする。	幼芽が1cm位になったとき箱を広げてかん水する。直射日光にあてないよう寒冷紗、育苗用シートで被覆する(高温に注意)。	直射日光にあてる。かん水は1日1~2回、十分にやう。
中苗・成苗	<ul style="list-style-type: none"> ○苗代つくり(10a当り必要面積10a(約3坪)) 溝の土上げ→整地→施肥(3.3m(坪)当り育苗444と300gとケイカル1kgをまぜあわせる。但し、土の肥沃度により削減する)→均等に床ならしする。 ○苗代への定植 箱並べ(床面への密着、水の吸い上げ確認) →育苗用シートでシネル被覆 雨が降っても水が苗床面に上がらないように排水口を開いておく。 ○発芽後の管理 4~6日して出芽がそろったら、育苗用シートを取り除く。 苗箱の土が乾かない程度に水管理する。 追肥は1.5葉期頃に、液肥200倍液を1箱当り500p施用する。 		

除草剤の使い方

使用適期	初期除草	中期除草	後期除草				
除草体系	7日前	5日目	10日目	15日目	20日目	25日目	30日目
一発除草	田植機による同時散布可能	カチボシ1キロ粒剤 5l	ノビエ2.5葉期まで				
		イネキング1キロ粒剤 1kg	ノビエ2.5葉期まで				
		シリウスエグザ1キロ粒剤 1kg	ノビエ2.5葉期まで				
液剤		サラブレッドKAIフロアブル 500p	ノビエ2.5葉期まで				
		ブルゼータフロアブル 500p	ノビエ3葉期まで				
バン剤		カチボシジャンボ 300g	ノビエ2.5葉期まで				
		シロノックジャンボ 350g	ノビエ2.5葉期まで				
二発除草	ダッシュワンフロアブル 500p				サンバンチ1キロ粒剤 1kg		
藻対策							藻の発生が有る場合は、「モゲトン粒剤」又は「モゲトンジャンボ」を散布する。

使用上の注意

- 田植後の除草剤散布上の注意
急激な気温上昇が予想される場合、薬害が出やすいので注意しましょう。
- フロアブル剤は、散布前にボトルを軽く振って原液をそのまま、10~15mの散布巾で散布する。(茎葉付着による薬害はない)水中拡散性によるため散布むらによる効果の変動は少ないが田面露出の場合は効果が無いので十分な灌水状態(3~5cm)で散布する。
- 散布後7日間は、そのまま灌水状態を保ち、落水、かけ流しをしない。
- シノホップアップル(クリンチャーの成分名)を含む農薬の総使用回数は3回以内。
- 【共通】
- 砂質土で漏水の大きい場(日減水深2cm以上)・強選元田では使用しない。
- 極端に浅植になった場合は使用し

11月~4月

5月

6月

水管理

乾田直播 主な作業と管理の要点 (赤字は基幹防除)

土づくり
越冬害虫の防除
冬期乾田化
土づくり資材の施用 施肥例参照

耕転
畦畔・休耕田の雑草を刈り取る。(ヒメトビウナ対策)

本田準備
(水50~100rに溶かす)
ラウンドアップマックスロード500pを散布する。
砕土、地ならしをていねいに行う。雑草の多い場合は
耕起直播の場合は冬期間に1~2回耕転する。

選種
上段別記参照

鳥害
上段別記参照

基肥
(施肥例参照)
キヒゲンR2フロアブル(乾燥種子1kg当たり100p塗沫処理)

播種
五月中旬(入水一カ月前頃)10a当り四~五kg

除草
播種直後
マシエット乳剤
水 七五r

除草
アドマイヤー1粒剤2kg
液剤1000p
クリンチャーバスマE
水 1000r

入水後の除草
水 1000r

補植
水 1000r

追肥
水 1000r

以降の管理は
機械植栽培に準ずる

(施肥例参照)
イネキング粒剤1kg
又は
シリウスエグザ粒剤1kg
30cm以上欠株の場合補植する。